

## コラム 人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

### 「伴走者」としての絆が、画面越しの悪意を跳ね返す

岡山県が推進する「夢育」の理念において、私たち大人は児童生徒の「伴走者（パートナー）」です。しかし、今の時代における「伴走」とは、単に横に並んで歩くことだけを指すではありません。夜、布団の中で一人、スマートフォンの光に吸い寄せられ、SNSの闇に引き込まれそうになっている児童生徒の心を、現実の温かな世界へと引き戻す「心の引力」になることこそが、発達支持的生徒指導を担う「伴走者」の役割なのです。

児童生徒が闇バイトという甘い罠に惹かれる背景には、将来への漠然とした不安や、現実の教室における「居場所のなさ」が隠れていることが少なくありません。私たちは、学校生活の中で「自分はここにいてもいいんだ」「自分には役割があるんだ」という手触りのある確信を与えられているでしょうか。

ある学校では、対面での雑談やアナログな活動を大切にすることで、児童生徒たちの表情に活気が戻りました。デジタルでは削ぎ落とされてしまう「相手の表情を見て笑う」「声のトーンから気持ちを察する」といった五感を通じたコミュニケーションこそが、孤独という隙間を埋める最強の防波堤になります。ICT危機の活用との両立が大切です。1人1台端末を使いながらも、教室の前からだけでなく、丁寧に「机間指導」を行い、一人一人に文字通り「寄り添って」いく。まずは教師からのそんな温かい関わりが必要だと言えます。

私たちに求められているのは、彼らが道に迷いそうになったとき、スマホの画面に踊る見知らぬ誰かの言葉より先に、担任の先生の「よく来たね」という笑顔や、部活動の仲間の声が浮かぶような関係性を日頃から築いておくことです。「先生なら必ず守ってくれる」という信頼の絆があれば、児童生徒は、勇気を持ってSOSを発してくれると信じています。（高橋）



# 「闇バイト」の正体と トクリュウの罠②

## ～学校ができる最大の防衛～

Voi.41の理解に基づき、学校ができる対応についてまとめました。夏季休業に入る前に、できることから始めてみませんか。

## Q. 「闇バイト」対策で学校ができることは？

A. SNSを介しての事案のため、学校だけで万全の対策を講じることは難しいかもしれませんが、それでもできることはあります。

警察と連携した非行防止教室の開催など、「規範意識の醸成」の必要性は言うまでもありませんが、重要なのは「基盤（土壌）」づくりです。そしてこの部分こそ、教師が担うべきところであり、教師の専門性を発揮すべき点だと思っています。『生徒指導提要』の実践上の4つの視点に基づいてまとめてみました。

学校ができること

## 「4つの視点」に基づく闇バイト対策

### ① 自己存在感の感受

「自分なんてどうなってもいい」という自棄的な心境にあるとき、児童生徒は闇バイトの誘惑に対して脆弱になります。日常の教育活動の中で、どの児童生徒にも必ずアナログな「出番」や「役割」を作り、「自分はこの集団に必要とされている」という実感（自己存在感・自己有用感）を育てることが、犯罪への最大の抑止力となります。画面の中の形式だけの賞賛（いいね！）ではなく、対面での「ありがとう」「助かったよ」という言葉が、彼らの心の盾になります。

### ② 共感的な人間関係の育成

闇バイトに誘われた際、犯罪者が待ち構えているかもしれないSNSの世界に助けを求めるのではなく、「先生や親に相談しよう」と思える信頼関係を築いておくことが大切です。失敗や悩みを受容・傾聴する「教育相談体制」が、児童生徒を孤独から救い出します。SCやSSWとも連携し、「どんな些細なことでも、この大人たちは自分の味方でいてくれる」という確信を育みます。

### ③ 自己決定の場の提供

情報の「嘘」を見抜く判断力を育てる「情報の真偽を確かめる力（メディアリテラシー）」を養います。SNS上の甘い募集が、なぜ「犯罪」と言い切れるのか、その根拠を児童生徒自身に議論さ

日頃からの  
基盤づくりが重要

せ、自分で正しく判断し行動する「自己指導能力」を育成します。外部から与えられたルールを守るだけでなく、「自分の人生を自分で守るための決定」ができる力を、授業や学級活動を通じて培います。

その際、児童生徒が考えやすい教材（漫画など）を使用することも効果的です。（右の二次元コード参照）

### ④ 安全・安心な風土の醸成

「急に高価な物を持ち歩く」「羽振りが良くなる」「理由のない遅刻・欠席が増える」といった変化は、「闇バイト」加担や脅迫の重大なサインです。心の健康観察などのデータも重要な指標となり得ます。教職員全体がこれらの兆候を共有し、多職種でスクリーニング（状況の判定）を行う体制を整えます。学校を、ネットの荒波から切り離された、物理的にも精神的にも「安全な聖域」として機能させることが重要です。

これらの対策は、あくまでも一例に過ぎません。ただ、日頃からこうした「基盤（土壌）」を耕しておくことが、「闇バイト」に限らず、すべての事象から児童生徒を守る「学校ができる最大の防御」だと思います。

## 早期発見と機動的・組織的支援も重要

「闇バイト」に関わる問題への対応は、一刻を争います。疑いがある場合は、担任一人で解決しようとせず、速やかに管理職へ報告し、警察等と連携した「ネットワーク型支援チーム（※）」を立ち上げて対応します。

警察の専門的な「保護」と、学校による「心のケア・学習支援」を同時に走らせることで、児童生徒を犯罪の連鎖から切り離し、再び健やかな成長の軌道（レジリエンス）へと戻していく。これが「チーム学校」の真の役割です。

### POINT

緊急時の指導効果を高めるための「日常」が最も大切

※「ネットワーク型支援チーム」については、Vol.39「コラム」参照



東京都教育委員会作成  
「闇バイト」防止啓発漫画はコチラ

いざという時の  
ために確認を